

Ril Net (Remote Islands Learning Network)

別添資料 4

令和3年度・令和4年度までの主な成果

(1) 遠隔授業などICTを活用した連携・協働の取組

- 37時間の遠隔授業を実施し、検証を行った。
- 遠隔授業において効果的な教材等について検証できた。
約8割の生徒が歴史学習に対する意欲や関心の向上を実感している。
(アンケートより)
- R5の単位認定を伴う相互配信に向けて、教育課程の一部・日課・時間割・教科書などを共通化できた。
- 指定校間で遠隔授業における成績評価の共通理解の形成ができた。
- 支援員の役割を明確化できた。

(2) 学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

- コンソーシアムの構築により、新たな協働の機会を増やしたり、探究活動の内容の更なる充実に向けた取組を進めることができた。
- 指定校の生徒発表会をオンラインで相互視聴し、コメントを共有できた。
- 指定校3校の約99%の生徒が「地域の課題を考え、その解決に向け意欲的に取り組み将来も地域に貢献したい」と思っている。
(アンケートより)

令和5年度の主な取組 (今後の課題)

(1) 遠隔授業などICTを活用した連携・協働の取組

遠隔授業の進め方の研究

- 持続可能な遠隔授業の実施に向けた教材・指導法等の工夫
- 授業の質向上のためのクラウドサービスの最大限の活用
- 一人一台端末を活用した授業の展開 等

相互配信の実践と単位認定

- 考査日程等の調整や評価基準・評価方法の研究の継続
- 授業者(配信側)と生徒(受信側)の信頼関係の構築 等

(2) 学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

学校外との連携強化

- 遠隔システムを活用した大学教員などの外部人材(専門家)の活用
- コンソーシアムとの活動の更なる充実 等
- 学校の枠を超えた協働的な学びの促進**
- 3校合同での研修会等の学びの機会の創出
- 遠隔システムによる報告会等の共有 等

【研究開発の背景と目的】

本県の取組は、しま地区の一島一校の3つの高等学校をいわば一つの大きな学校として捉える教育活動の充実を目指し、教育的効果や解決すべき課題、行政に求められる役割等について研究開発を進めるものである。一島一校の高校には、島内のほぼ全ての生徒を受け入れ、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うという役割が期待されているが、生徒の多様なニーズに対応した指導体制を、単独の高校で確保することは難しい。また、その地域の未来の担い手を育成する観点から、地域の関係機関と連携・協働した特色・魅力ある活動により一層取り組むことも必要であり、本事業に取り組む意義は大きいと考えられる。本事業を通して、生徒の自己肯定感を高め、社会の変化に主体的に関わるための資質・能力を育むことにより、一人一人の可能性を伸ばし、将来様々な分野でふるさとに貢献できる人材の育成につなげていきたい。

